千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第48週（11/24-11/30）の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		48週	47週	46週	45週
	小児科	18	17	18	18
	眼科	5	4	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数／報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市 11/24-11/30 48週	千葉市 11/17-11/23 47週	千葉市 11/10-11/16 46週	千葉市 11/3-11/9 45週	千葉県 11/17-11/23 47週
小児科	RSウイルス感染症		10 0.56	8 0.47	11 0.61	4 0.22	125 0.96
小児科	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	0 0.00	3 0.17	51 0.39
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35 1.94	54 3.18	47 2.61	25 1.39	367 2.82
小児科	感染性胃腸炎	○	170 9.44	150 8.82	112 6.22	62 3.44	1,053 8.10
小児科	水痘		12 0.67	13 0.76	15 0.83	5 0.28	156 1.20
小児科	手足口病		15 0.83	21 1.24	21 1.17	18 1.00	142 1.09
小児科	伝染性紅斑		2 0.11	3 0.18	1 0.06	0 0.00	52 0.40
小児科	突発性発しん		11 0.61	11 0.65	14 0.78	16 0.89	59 0.45
小児科	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	7 0.05
小児科	ヘルパンギーナ		3 0.17	0 0.00	0 0.00	3 0.17	14 0.11
小児科	流行性耳下腺炎		4 0.22	1 0.06	1 0.06	6 0.33	45 0.35
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ(高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く)	○	150 5.36	84 3.11	31 1.11	16 0.57	335 1.62
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
眼科	流行性角結膜炎		2 0.40	2 0.50	3 0.60	1 0.20	16 0.50
基幹定点	細菌性髄膜炎（髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
基幹定点	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
基幹定点	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
基幹定点	クラミジア肺炎（オウム病を除く）		1 1.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
基幹定点	感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（3件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出等
結核	女性	30歳代	IGRA検査	－	－	－	－

・結核2件（232）、侵襲性肺炎球菌感染症1件（11）の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

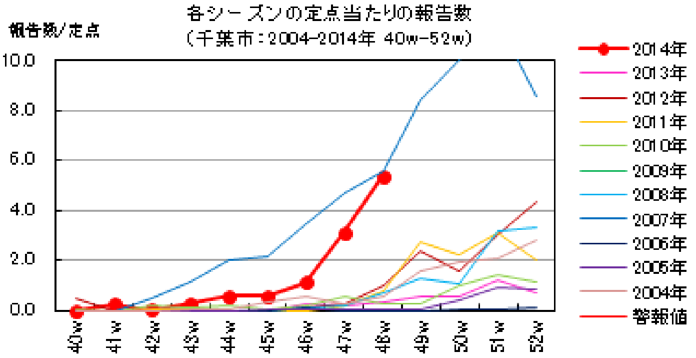
定点当たり報告数　第48週のコメント

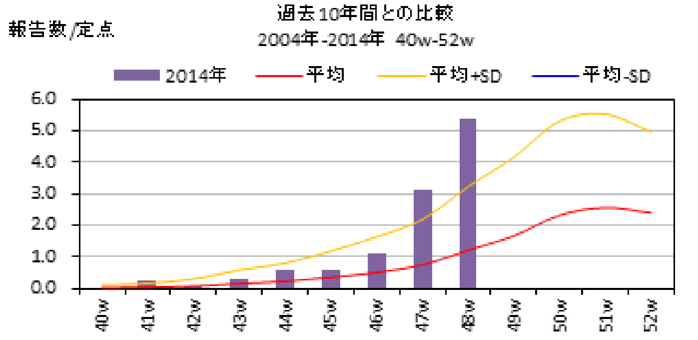
＜感染性胃腸炎＞前週より増加し9.44となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。
＜インフルエンザ＞前週より更に増加し5.36となった。過去10年の同時期と比べると多い。

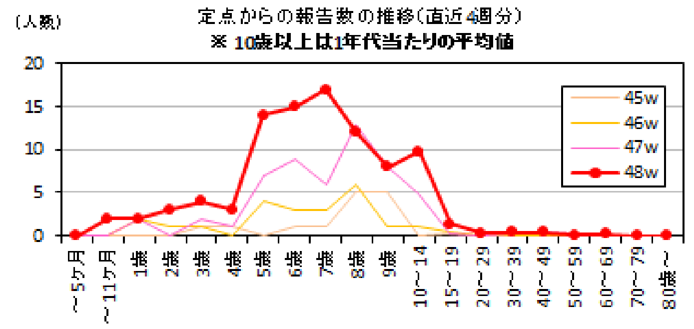
■ トピック ■

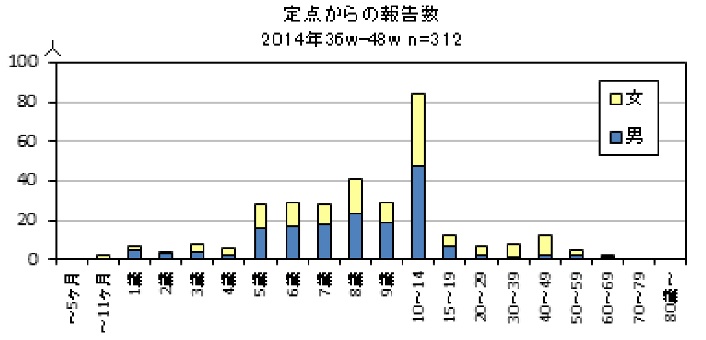
＜インフルエンザ＞

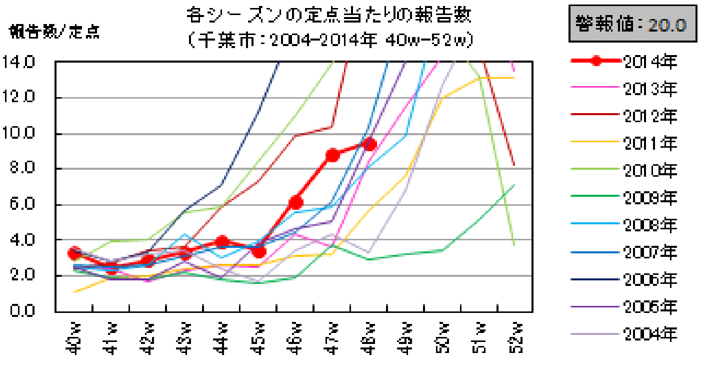
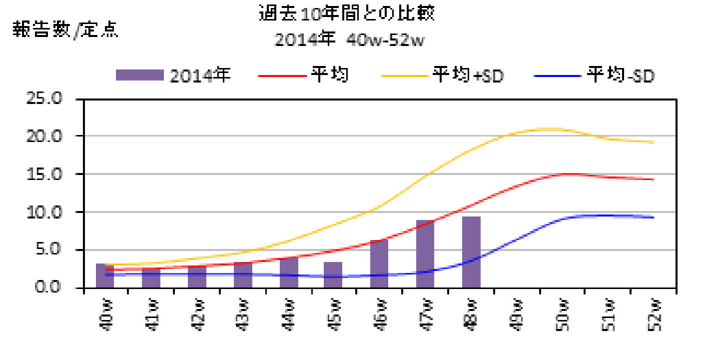
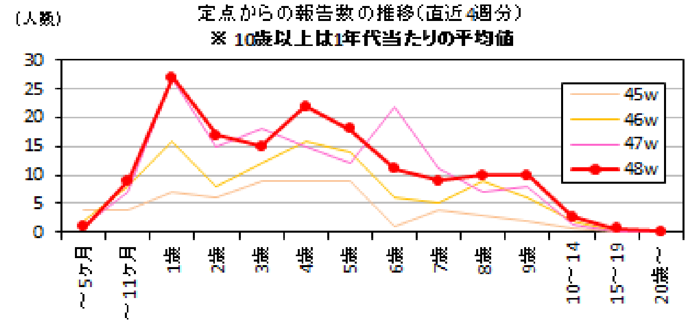
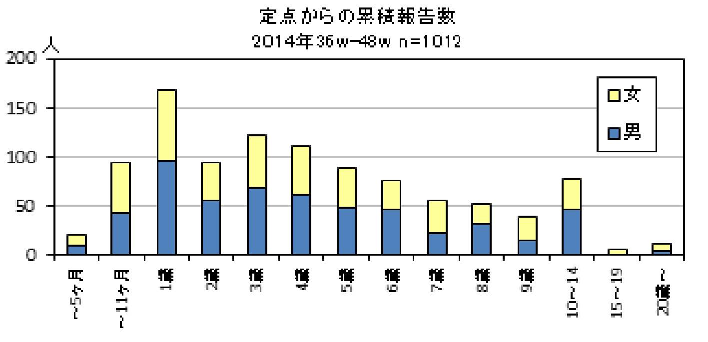
2014年の全国レベルの第47週現在は過去7年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、東北地方の一部や関東地方で上昇しており、岩手県、福島県、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第48週現在は前週より増加し5.36となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区（10.0/定点）で流行発生注意報基準値に達し最多で、同区の10歳代前半で最も多く、1年代当たりでは7歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から第48週現在の累積報告数（n=312）によると、性別では男性が54.2%（169名）、女性が45.8%（143名）で、年齢階級別の1年代当たりでは8歳（13.1%：41名）、9歳及び6歳（9.3%：それぞれ29名）の順に多くなっており、全体に占める20歳未満の割合は89.1%（278名）、10歳未満の割合は65.5%（182名）となっています。









＜感染性胃腸炎＞

2014年の全国レベルの第47週現在は過去7年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、大分県、香川県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより若干多めとなっています。千葉市の第48週現在は前週より増加し9.44となりました。過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。区別の発生状況では、若葉区（20.0/定点）で流行発生警報開始基準値に達し最多で、同区の1歳で最も多く報告されました。若葉区では、今年年頭から連続して例年の平均＋2SDを上回る高い水準で推移しています。今シーズンである2014年第36週から2014年第48週現在の累積報告数（n=1012）によると、性別では男性が53.8%（549名）、女性が46.2%（472名）で、年齢階級別では1歳（16.5%：168名）、3歳（12.0%：123名）、4歳（11.0%：112名）の順に多くなっています。